

まえがき

この報告書は、佛教大学総合研究所の研究班：「現代医療の諸問題——仏教ヘルスケアの視点から」の研究成果、とくに2001年7月28日に佛教大学四条センターで開催されたシンポジウム『仏教と医療～相互の実践と変革をめぐって』で発表された報告内容をまとめたものである。

本研究の目的は、臓器移植・体外受精・遺伝子医療などに代表される高度化した現代医療が、はからずも推し進めてきた医療の非人間化や患者—医療者間の人間関係の希薄化などの諸問題に対し、仏教的側面を加味したヘルスケアの視点からの分析を試みることであった。ここで言うヘルスケアとは、従来の「医療」の狭い枠組みを超えて、生まれてから死ぬまでの日常生活の中で人々が健康のレベルを身体的精神的社会的ならびにスピリチュアル（霊的）によりよい状態に保持したり変えていったりすることができるような生き方を含んだ（医療よりも）幅広い概念である。

長い歴史を有する仏教は、人間存在に根ざしつつその苦悩に対処するために開発されたものであり、そのヘルスケアの礎となりうると期待されるものである。近代科学や社会と、人間との間の溝が深まった今日、ビハーラ（仏教ホスピス）のように、医療さらにはヘルスケアの場において仏教（宗教）の果たしうる役割は社会的評価に値するものである。

本研究班は、次のような8名の学際的研究者で組織された〔注：所属は研究班期のもの〕。

- ①村岡 潔（研究班主任・文学部助教授，医学概論・医療思想史・医療倫理）
- ②田山令史（文学部教授，哲学・倫理学）
- ③江口法子（佛教大学心理クリニックセンター助教授，臨床心理学）
- ④小野尚香（文学部非常勤講師，近代日本医療史看護史，宗教医療史）
- ⑤神居文彰（平等院住職・文学部非常勤講師，仏教学・日本仏教）
- ⑥蔵田伸雄（三重大学人文学部専任講師，生命倫理学・倫理学）
- ⑦佐藤純一（宮城大学看護学部教授，佛教大学文学部非常勤講師，医学哲学・医療思想史，医療社会学，医療人類学）
- ⑧中川 晶（ながわ中之島クリニック院長，佛教大学文学部非常勤講師，心療内科・医療心理学）

また、本研究班は、東アジア（台湾・韓国等）における仏教（宗教）的理念に基づいた様々なヘルスケアの営為の現状について調査・検討する目的で、韓国（2000年2月12日—15日）と台湾（2000年8月5日—10日）を訪問した。韓国では国立釜山大学病院ホスピス病棟と圓光大学校付属の圓光ホスピス院（益山市）を、また、台湾では慈済会（佛教慈済基金會）の付属病院の安寧病棟（ホスピス病棟）などの関連施設（花蓮市等）を実地見聞した。両国においては、仏教が日常や病院の中にまで根ざしているように思われたが、これらの体験は、日本における仏教とヘルスケアの関わりの可能性を考える上で大いなる示唆を与えてくれるものであった。

この報告書は、全体として、こうした体験を踏まえた上で、各論者が各々の専門領域から「現代医療と仏教的（あるいは宗教的）ヘルスケア」に関するテーマを選び論じたアンサンブルとなっている。これらの分析が今後の研究のひとつの礎石になることを執筆者一同心から願うものである。

研究班主任 村岡 潔